

「プラスチックゴミは 出したくない!」 30年前も、今も、 それが私たちのあたりまえ

プラスチックゴミの問題は **待ったなし!**



撮影 福岡県

※1 2050年には海洋プラスチックが 魚の量を超える!?

海に漂う漁網などのプラスチックゴミが身体に絡まり動けなくなったり、エサと間違えて食べたレジ袋などが胃の中に溜まったりすることで、多くの海洋生物の生命が奪われています。また、プラスチックは自然分解されず数百年も残ると言われており、原料や添加剤に含まれる※2環境ホルモンも問題になっています。

川から流れ込んだり海に捨てられたプラスチックゴミは太陽光や波、風にさらされ、細分化されてマイクロプラスチックとなります。マイクロプラスチックは有害な化学物質を吸着し、プランクトンや小魚の体内に摂りこまれ、それをエサにする大型の魚や鳥、ほ乳類などの体内に濃縮して蓄積されます。さらに、大気中にも微細なマイクロプラスチックが浮遊していることが分かってきました。私たち人間をはじめ陸上の生物も影響を受けているのです。

※3 日本の1人当たりの使い捨てプラスチック 排出量は世界2位!

日本ではペットボトルなどプラスチックのリサイクルを中国などアジア諸国に頼っていますが、中国が輸入規制を始めたことで、廃棄プラスチックの行き場がなくなっています。アジアの途上国では処理体制が整っていない国も多く、結果的に海に流出する懸念も高まります。

日本で行われるプラスチックのリサイクルは、その多くが燃焼させることにより熱エネルギーを回収・利用するサーマルリサイクルです。しかし地球温暖化が問題になっている中、発熱量の高いプラスチックの燃焼は、CO₂排出を削減しようという流れに逆行するものと言えます。

※1 2016年の世界経済フォーラム(ダボス会議)で試算が報告された(重量ベース)

※2 内分泌かく乱物質。生物のホルモンの働きをかく乱する作用を持つ

※3 2018年の国連環境計画(UNEP)の報告書による

現在、海洋プラスチックゴミやマイクロプラスチックなど、世界中で大量に廃棄されているプラスチックによる環境汚染が大きな問題となっています。私たちが経済性と利便性を追求してきた結果、今、地球の生き物は悲鳴を上げています。国際社会はようやく対策に動き出し、プラスチック削減に取り組む企業も増えています。

グリーンコープは30年前の設立当初から、「経済効率優先の商品ではなく生命を育む食^{いのち}べものを」「みどりの地球をみどりのままで」を掲げ、「環境のために、今すべきこと」を考えて資源の再利用やゴミの削減に精一杯取り組んできました。私たちの日常は、今で言うサステナブル(持続可能)な社会をつくることと重なっていたのです。

今、プラスチックを減らすことは私たちの未来のための喫緊の課題。グリーンコープを利用することで、あなたにもできるサステナブルな暮らし、考えてみませんか。

グリーンコープは環境を守るために できるだけプラスチックを使いません。

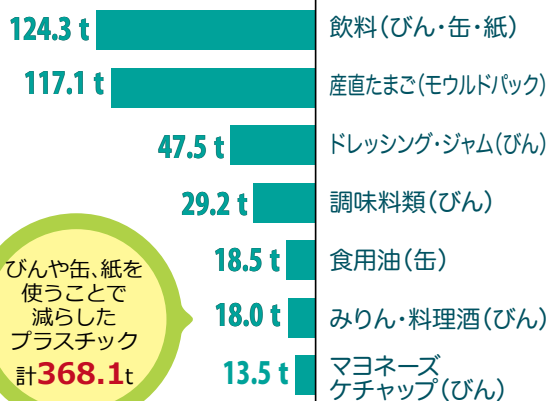
プラスチックを使えば安く簡単に商品包材ができるとしても、自然にあるものやリユース可能な素材があれば、できる限りそれを使います。

グリーンコープの
商品を使
うことで

1年間におよそ500トン **バス 約36台分!**
ものプラスチックゴミを削減!

バス1台14tで換算

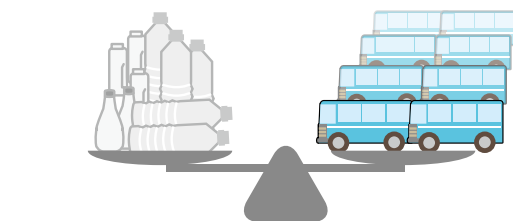
■1年間にプラスチックをゴミとして出さなかった重量
(2018年度実績)



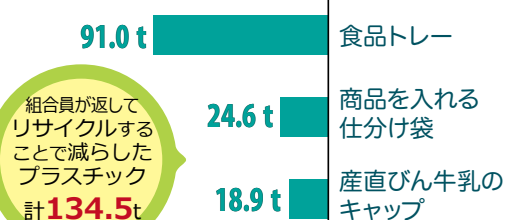
びんや缶、紙を
使うことで
減らした
プラスチック
計**368.1t**

100 50 0 (t)

市販品の容器・包材(ペットボトル、プラスチックケース、チューブなど)の重量をもとに、グリーンコープ商品の供給実績を換算しています。



■1年間に回収しリサイクルしたプラスチックの重量
(2017年度実績)

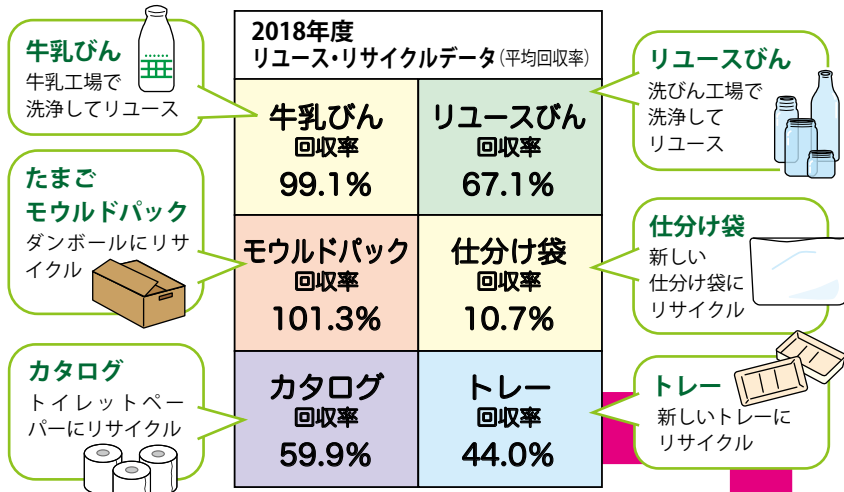


組合員が返して
リサイクルする
ことで減らした
プラスチック
計**134.5t**

100 50 0 (t)

組合員から食品容器などを回収して リユース・リサイクルしています

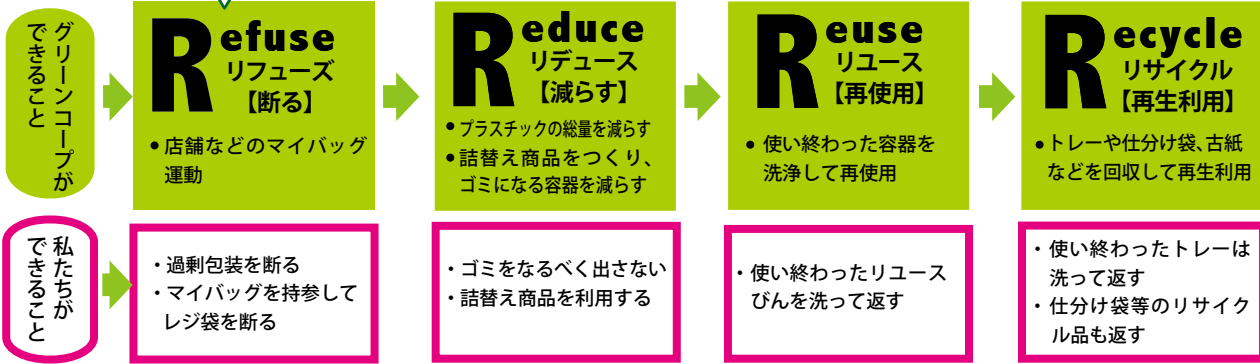
「共生の時代」では、毎月リユース・リサイクル品の回収率を案内しています。



回収率100%をめざそう！

トレーや仕分け袋の回収率が低いのが残念…。
資源の有効利用のためにも、みなでリユース・
リサイクルの輪に参加しよう！

一般的には「3R」が呼びかけられていま
すが、グリーンコープは、Refuseすることも大
事だと考え、4つのRに取り組んでいます。



グリーンコープの4Rについては、今週配布の
「♻️グリーンコープ4Rガイド」を見てね！

リユース・リサイクルするものの
返し方も詳しく案内しています。



容器などの返し方は
動画もチェック！
(グリーンコープ生協ふくおか
いのちとくらしの委員会制作)



グリーンコープのリユース・リサイ
クルは、組合員、食品メーカー、包装
加工会社が協力するしくみで成り
立っています。



グリーンコープの

4R

私たち一人ひとりが できること

サステナブルな
意外とカンタン

くらしのゴミを減らし、環境を守るため、グリーンコープは4
つのRに取り組んでいます。まず「ゴミになるものを減らし、びん
はリユース、プラスチックを使わざるを得ない場合でもできるだけ
リサイクルすること」をめざしてきました。

このリユース・リサイクルのしくみは、どれもグリーンコープが
洗ひん会社やリサイクルを行う会社、食品メーカーなどの
賛同と協力を得て、独自で確立したシステムです。

持続可能な社会の実現を

グリーンコープのプラスチック削減 30年のあゆみ

いつの時代も変わらない
母親たちの願い

1960年代の高度経済成
長期以降、世の中が豊かで便
利になるにつれ、大量消費・大
量廃棄をする社会が生まれ、
家庭から出るゴミの量も年々
増加してしまいました。そんな中、
「生命を大切にしたい」「食べ
ものを大切にしたい」、家族
の健康と環境を大事に思う母
親たちが運動を始めます。

グリーンコープの前身生協
時代、九州で初めて牛乳パック
をトイレットペーパーなどに
リサイクルするなど、自分たち
にできることから環境を守ろ
うと取り組んでいました。

プラスチックはできるだけ
「使わない」を選択

1988年にグリーンコー

プが誕生してからも、食の安
心・安全と環境を守ることを
追求してきました。その姿勢
は商品の包材にも貫かれ、食
べものと同じように安心・安
全で環境を汚さないものを、
と検討がすすみます。

商品をつくるにあたって大
切にしたのは、どうしても欠
かせない容器・包材は、昔から
使われてきたびんや缶を使う
こと。そして便利さや安さに
流されることがなく、プラスチ
ックの総量を減らすこと。食品
包材からプラスチックを減ら
す、多少の不便はかかえても、
びんのリユースをすすめる、ゴミ
の排出量を減らし、自然と資
源を大切にすることなどをめ
ざしました。

また、塩化ビニルがプラス
チックゴミとして焼却される
時に発ガン性物質ダイオキシ

ンを発生させることが明らか
になり、「ゴミとなった場合の害
をはじめから想定して、食品包
材には塩化ビニルを使わない
ことになりました。後に多くの
プラスチックに環境ホルモン
物質が含まれることも分かり、
使用せざるを得ないプラス
チックの材質についても検討
が深められます。

リユース・リサイクルの 先進的な取り組み

1996年からは、びんのリ
ユースが実現。1999年には
日本初となるトイレットペー
パーのリサイクルがスタートしま
す。同年、たまご容器としてモ
ールドバックが採用され、回収
とダンボールへのリサイクル
も始まりました。組合員はその
時々の「今できること」を最大
限に実現してきました。

グリーンコープの
「環境政策」

2000年には、それまで
の基本的な考えをまとめた
「グリーンコープ環境政策」が
策定されました。その中には、
食水・緑を軸とした循環型共
生社会をつくること、4R運
動を実践することなど、現在
につながるグリーンコープの
環境運動の根幹があります。家
庭でも、不必要な物は買わない
ことやリサイクルゴミを出さ
ない生活することなど、でき
ることに取り組もうとなつて
います。

まだまだやれることは
たくさんある

行方など、プラスチックゴミを
出さない取り組みをさらにす
めることになりました。

2003年、牛乳のびん化
が実現し、同時に牛乳びんの
リユースがスタート。201
0年には組合員の長年の要望
に応え、仕分け袋のリサイク
ルも実現しました。2014
年にはカタログのリサイクル
も始まりました。

※一部店舗では取扱い

組合員

社会の流れに抗って
「こうありたい」を貫いてきた
グリーンコープ生協ふくおか組合員
元連合組織委員会担当組合員事務局 松田節子さん

1970～80年代、グリーン
コープの前身生協は、それぞれに
環境を守る取り組みをしていま
した。私がいた生協では、食品包材に
はびん、紙、缶、缶を使用し、プラスチ
ックトレーはありませんでした。

1988年にグリーンコープに
統合して規模が大きくなり、商品
の包材にもプラスチックが検討に
上るようになりました。今では安
全でも、人間がすることに完璧は
あり得ないと思います。時間が経
過すると新たな問題が浮上してく
るものです。そういう視点からど
うしてもプラスチック包材にはし

グリーンコープ独自の 循環型リサイクルシステム トレーtoトレー

世界初！

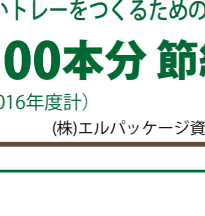
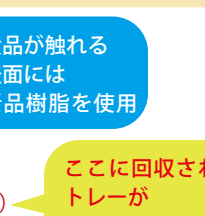
ゴミの削減と安心・安全を目的に、1999年に始まったトレーの
リサイクル。プラスチックはゴミになるか、他のもののへリサイクル
が当たり前だった当時から、同じトレーへのリサイクルは画期的な
ことでした。

当初、トレーの材質はポリスチレンに決まり、当時のグリーンコー
プ生協(福岡)での実験展開を終えて、オールグリーンコープでの取
り組みがスタートしようとしていました。その矢先に環境ホルモン
の問題が浮上したため、ポリスチレン製のトレーを断念、組合員は一
から検討をやり直すことを決めました。

安全なトレーをつくるべく、出合ったのが、
(株)エルパッケージでした。そしてついに環境ホルモンが溶出し
ない、PP(ポリプロピレン)とPE(ポリエチレン)を原料に、強度と耐
性を高めるタルクを添加したトレーが実現したのです。



お皿と同じように
せっけんできれいに
洗って返してね。
油汚れなどが残っ
ているとトレーに
リサイクルできま
せん。



グリーンコープ
商品
組合員へ届ける

グリーンコープ
トレーを
きれいに洗って返す

グリーンコープ
トレーを回収する

エルパッケージ
トレーを選別し、
洗浄して
粉碎する

樹脂再生業者
粉碎したトレーを
溶かして
ペレットをつくる

エルパッケージ
ペレットを
シート状に加工し、
トレーに成型する

食品メーカー
トレーに
商品を入れる

エルパッケージ
工場内は食品工場と同等の
衛生管理を徹底

トレーがトレーへ再生する
永久的に続くシステム

私たちの使っているトレーは、20年前の
プラスチックも原料になっているってコト。
ずっと前からサステナブルな形をつくってきたんです。

容器断面図

表層 0.015mm 新品樹脂(ポリプロピレン)
中心層 0.47mm 中心層は
新しい原料+再生原料(約50%)
裏層 0.015mm 新品樹脂(ポリプロピレン)

安全 環境ホルモンが含まれない
樹脂原料を使用

丈夫 トレーに溝をつけることで
強度が上がり、包装フィルムを
かけても曲がらない

耐性 冷凍にも耐えられる
耐冷、耐衝撃性のトレー
(-30℃～120℃の耐性)

食品が触れる
表面には
新品樹脂を使用

ここに回収された
トレーが
使われています

節約した石油資源
トレーをリサイクルすることで、新しいトレーをつくるための石油を、
16年間でドラム缶
(200ℓ/本) 12,100本分節約！
(2000年～2016年度計)
(株)エルパッケージ資料による

トレーtoトレー
を実践
包装加工会社

最初は無理だと思ったけど
組合員さんの熱意に引き込まれました
(株)エルパッケージ
代表取締役社長 内田誠さん(当時工場長)



熱心に訴えてきました。その熱
い想いに我々が引き込まれたん
です。

安全なトレーを届けるという
ことに真剣に向き合い、改善し
ていくうちに、我が社も環境や
人にやさしい商品づくりへとシ
フトしていきました。

トレーtoトレーを、組合員さ
んの力で20年も持続できるっ
てとてもすごいことなんです
よ。これからも続いていくよう
もって回収率をアップさせてほ
しいです。

トレーtoトレー
を実践
産直若鶏生産者
食品メーカー

ぶれずに信念を貫き通すグリーンコープ
(株)秋川牧園 取締役 甲斐利光さん



ずっと以前はポリスチレン製
のプラスチックトレーを使っ
ていましたが、その後グリーンコ
ープでは紙トレーを採用され、
しばらく続いた後、現在のリサ
イクルトレーに変更されまし
た。

紙トレーに変わった時、グ
リーンコープは本気で環境問題
に取り組んでいるんだと感じ
ました。

改めると、トレーから
トレーへのリサイクルや、ケ
チャップの容器をリユースびん
にするなど、世間では考えられ
ないことをグリーンコープはや
ってきました。常にぶれずに、い
いことはきちんとやるのがグ
リーンコープだと思います。

これからも世間におもね
ることなく、グリーンコープの道
を歩んでほしいと願っています。

あたりまえすぎて気付かなかったけれど、 実は30年前から SDGsを実践していました。

グリーンコープは、30年前の設立当初から、「生命に寄り添う」生協として、生命を育む食べものを大切に、安心・安全な食べものを生み出す環境を考え、また平和のためにさまざまな運動をすすめてきました。

今、世間ではSDGsを掲げる企業や団体が増えています。SDGs(エスディーゼーズ)とは国連が2015年に採択した「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」にまとめられた**17の目標**。「誰ひとり取り残さない」をキーワードに、今世界で起きている地球環境や気候変動、貧困、エネルギーの問題などの解決に向けて、2030年までの達成をめざしています。

SDGsに掲げられた目標は、グリーンコープが生命を大切に思い、ずっと取り組んできた運動とめざすところは同じ。私たちが当たり前にしてきたことでした。

SDGs × グリーンコープ

環境を守る取り組み

グリーンコープ運動はすべてのSDGsの項目にあてはまりますが、今回は**環境を守る取り組み**にスポットを当てて紹介します。



エネルギーをみんなに そしてクリーンに

脱原発運動

原発は「いのち・自然・暮らし」を脅かすもの。チェルノブイリ原発事故以来、一貫して脱原発をめざしています。

グリーンコープでんき

原発のない社会の実現をめざして、自然エネルギーの発電所づくりや、電気の共同購入の取り組みをすすめています。



つくる責任 つかう責任

4R運動

環境を守るために、くらしのごみを減らすとともに、商品の容器・包材はできるだけリユース・リサイクルしています。

ファイバーリサイクル

衣類のリユース・リサイクルと、生活困窮者の自立支援、国境を越えた子育て支援を目的に取り組んでいます。



気候変動に具体的な対策を

プラスチックゴミの削減

容器・包材のプラスチックの量を減らし、リユース・リサイクルすることに取り組んでいます。

フードマイレージ

輸送に伴い発生するCO₂排出量を少なくする取り組み。国産のものを食べることで削減されるCO₂を、ポコ(POCO)という単位で表しています。

4R運動

グリーンコープでんき



海の豊かさを守ろう

せっけん運動

環境にも人にもやさしいせっけんを、生活のあらゆる場面で利用することをすすめています。

プラスチックゴミの削減



陸の豊かさを守ろう

遺伝子組み換え作物・食品(GMO) ・ゲノム編集食品 反対運動

危険性が指摘されているGMOやゲノム編集食品に一貫して反対し、規制と表示を求める署名運動などを行っています。

産直—農薬を減らした農業

化学合成農薬や化学肥料を不使用または減らした栽培を、産直生産者と共にすすめています。

プラスチックゴミの削減

Sustainable Development Goals

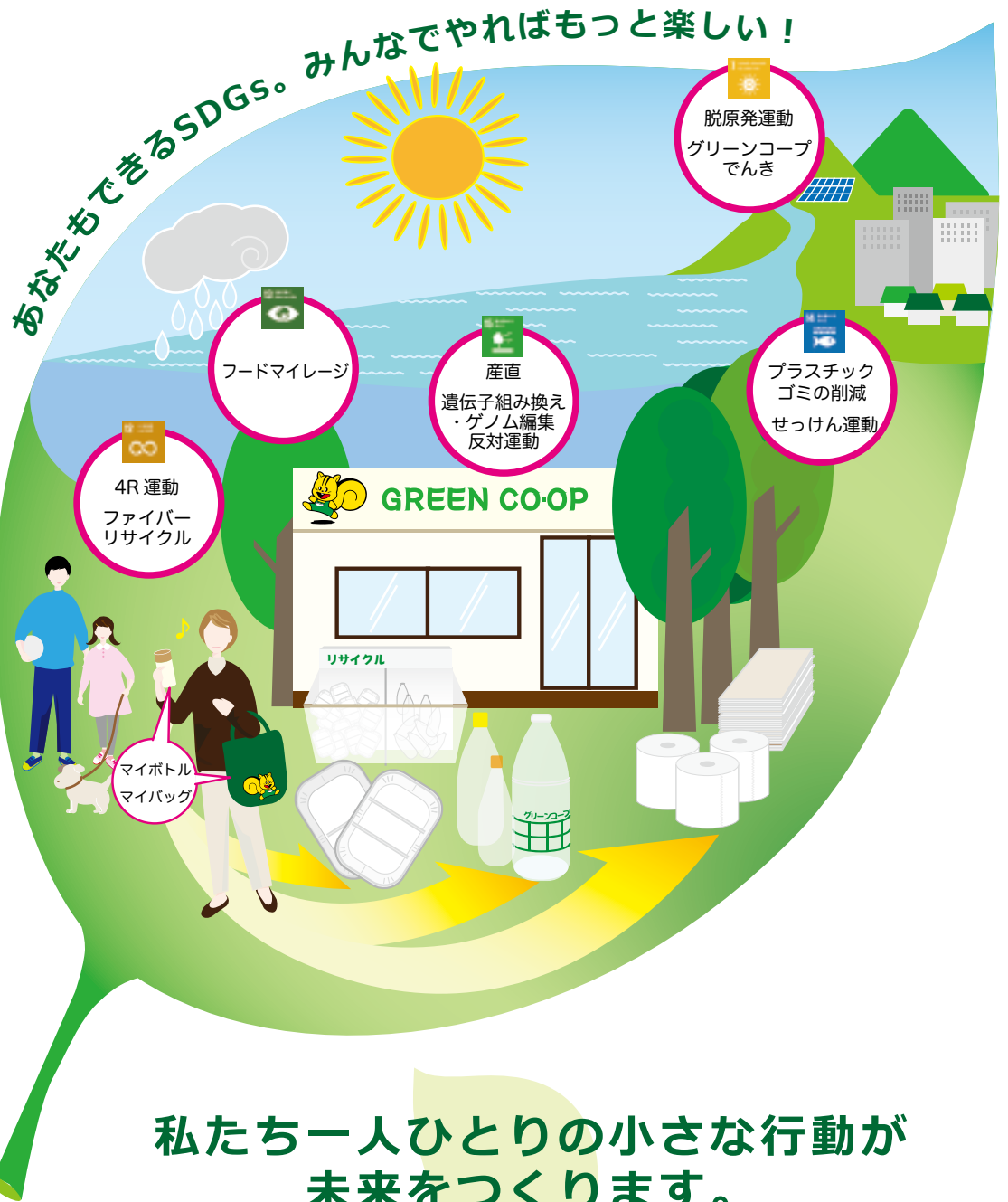
サステナブル ディベロップメント ゴールズ

持続可能な開発目標

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



① 貧困をなくそう ② 飢餓をゼロに ③ すべての人に健康と福祉を ④ 質の高い教育をみんなに ⑤ ジェンダー平等を実現しよう ⑥ 安全な水とトイレを世界中に ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧ 働きがいも経済成長も ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩ 人や国の不平等をなくそう ⑪ 住み続けられるまちづくりを ⑫ つくる責任つかう責任 ⑬ 気候変動に具体的な対策を ⑭ 海の豊かさを守ろう ⑮ 陸の豊かさを守ろう ⑯ 平和と公正をすべての人に ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう



私たち一人ひとりの小さな行動が
未来をつくれます。

グリーンコープが30年という時をかけて生みだしてきた容器やリユース・リサイクルのしくみ。そのおかげで、今私たちはグリーンコープを利用することで、プラスチックゴミを減らした生活をすることができます。それはつまり、SDGsを実践すること。

unnecessary container・包装は断る、マイボトルを持つ、リユース・リサイクル品をきちんと返すなど、私たちにできることはたくさんあります。一人ひとりの小さな行動の積み重ねが、これからの地球環境、子どもたちの未来を変えるはず。

グリーンコープの「循環の輪」に参加して、いっしょに持続可能な社会をつくっていきましょう。